

【学校教育目標】
郷土に根ざした
健全な児童の育成
【めざす学校像】
みんなの笑顔があふれる周布
小学校 ～スマイル・フル～
【めざす子ども像】
学ぶ子 育つ子 進む子



浜田市立周布小学校
浜田市周布町1-63-3
電話 0855-27-1006
FAX 0855-27-4724

令和7年5月号 文責：大達高弘

誰もが、誰かの、たからもの

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない
互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる
そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は
自分のサイズで、一生懸命に生きる人を応援してくれる
未来への原動力

人が人のたからもの
誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

保護者、地域の皆様の中には、上記の詩（メッセージという方が
いいのかもしれませんが…）を何かの機会に目にされたことがある
方もいらっしゃるかもしれません。

私がこの詩を初めて目にしたのは、今から2年前の2023年6
月30日の新聞でした。島根県が、県内外に「島根らしさ」を打ち
出す広報戦略として掲げたものの一つだと、新聞で紹介されてい
ました。その時の記事では、これまでの首都圏向けの発信から方向
性を変え、県民に対しても地方の良さ、魅力を再認識してもらうこ
とに主眼をおき、今後、プロモーションを展開していくとありまし
た。しかし、それ以来、あまり見かける機会もなく、私自身、記憶
から消えていました。それが、この度、島根県教育委員会から教職
員一人一人に配付された、【しまね教育振興ビジョン 概要版】と
いうリーフレットに掲載されていたのです。久しぶりに目にしま
した。そして、島根県教育委員会が、島根らしい魅力ある教育を推
進していくために、この「誰もが、誰かの、たからもの」という言
葉をキーワードにしていくんだなと、私は受け止めました。

「誰もが、誰かの、たからもの」って、とっても素敵な言葉です
よね。本当にその通りだと思います。みんな誰しも、一人一人違っ
ていて、それでいて一人一人に良さがあり、みんな必ず誰かを支え、
誰かの役に立ったり、力になったりしています。その人がいてくれ
るだけで、幸せを感じている人が必ずいるはずです。価値のない人
なんて、一人もいない。そう考えると、やっぱり、「誰もが、誰か
の、たからもの」なのです。

私は、周布小学校の235人の子どもたちが、「自分も誰かのた
からものなんだ」と思える子どもに育ってほしいと願っています。
つまり自己存在感、自己肯定感をしっかりともらった子どもです。そ
れと同時に、自分以外の人も、やっぱり誰かのたからもので、とて
も大切な存在なんだということにも気付いてほしいと願っていま
す。そういう自他の尊重の精神を育みたいのです。

そのために私は、子どもたち一人一人への挨拶と声かけを続け
ます。子どもたちに感謝の気持ちを伝え続けます。そして、235
人の笑顔があふれるスマイル・フルな周布小学校を目指します。

田植えをしました(5年生)

好天に恵まれた4月30日。5年生が田植えをしました。総合的
な学習の時間に取り組んでいる【ご飯もりもりプロジェクト】の一
環としての体験活動でした。山崎誠様をはじめとして、たくさんの
地域ボランティアの皆様にご協力いただき、事前学習からこの日
の田植えまでの一連の活動に取り組みました。

ほとんどの子どもたちが初めて体験する田植え。泥の感触や作
業の大変さなどを感じながら、一生懸命に田植えをしました。



始めの会の話の中で、「実際に自分で体験してみて初めて分かる
ことがある。今日は、実際に田植えをすることで、心と頭と体で何
かを感じてほしい」と子どもたちに話しました。

以下は、活動後の子どもたちの感想です。ぜひご覧ください。

- 田植えは想像では簡単そうだったけど、本当は難しかったです。今
まで普通に食べていたお米も八十八の手間がかかっているんだと思
うと、今度からはお米一粒一粒を大切に食べたいです。
- 田植えをしたことはあったけど、手で植えたことはなかったので、
手で植える大変さがわかりました。自分で植えたお米がどのように
育っていくのかが楽しみです。地域の人に来てくださったおかげで
田植えができたので、地域の人には感謝したいです。
- 一面しか田植えをしていないのに、すごく疲れました。これを全面
やっていると考えると、すごく大変だなと思いました。さらに、あ
と87回の苦勞をかけてやっていると思うと、いっつもふつうに食
べていたお米を、大変さを思い出しながら食べたいと思いました。
地域の人たちの苦勞や大変さを実感して、びっくりしました。
- 昔の時代では、私たちがやった何倍も広い所を手作業でやっていた
と思うと、昔の人はすごいなと思います。今は機械があるから楽だ
けど、機械があることが当たり前じゃなくて、ありがたいなと思
いました。とても貴重な体験ができて楽しかったです。おばあちゃん
の家にも田んぼがあるので、手伝いたいです。

素敵な感想ですね。田植えという体験活動を、ただの【体験】
で終わらせることなく、5年生はたくさんのことを感じてくれま
した。米作りの大変さ、食への感謝、昔の人々への尊敬、自分の生
活の見つめ直し、家族の一員としての自覚などなど。5年生にとっ
て、本当に多くのことを感じる事ができた体験活動でした。

学校では、どの学年も様々な体験活動に取り組みます。もちろん、
体験することそのものにも意味はありますが、大切なことは、体験
活動をただの【体験】で終わらせるのではなく、体験を通して【何
を考え、何を感じ、何を学ぶか】です。体験と知識・理解・思考が
一つになってこそ、より深い学びになると思うのです。その意味で、
今回5年生が取り組んだ田植えという体験活動は、本当に素晴ら
しい活動、そして素晴らしい学びでした。

こういう深い学びができるのも、学校の様々な体験活動を支え
てくださる保護者、地域の皆様のおかげです。周布小学校では、こ
れからも、たくさんの方々のお力をお借りしながら、校区内のひ
と・もの・ことを最大限に活用し、学校教育目標である【郷土に根
ざした健全な児童の育成】の実現に向かって歩んでいきたいと思
います。

周布小三本柱が決定しました！！

周布小学校の児童会三本柱が決定しました。下の写真は、児童昇降口掲示板の委員会活動コーナーの様子です。児童総会で報告のあった内容が、全校児童に見える形で掲示されています。



この【周布小三本柱】は、この1年、何を大切にしてみんなで学校生活を送っていくのかを具体的に表したものです。学校の合言葉【みんなの笑顔があふれる周布小学校～スマイル・フル～】の実現を目指し、自分たちはどうあるべきかを考えた結果が、この周布小三本柱です。スマイル・フルな周布小学校にするために、素晴らしい三本柱を考えてくれた実行委員会のメンバーに、私は感謝の気持ちでいっぱいです。また、全校児童235人の笑顔があふれる学校にするために様々な活動に意欲的に取り組んでくれる各委員会のすべての子どもたちにも、感謝しています。

素晴らしい三本柱、目標やめあてが決まりました。ですが、決めることがゴールではありません。自分たちが立てた目標やめあてを実現するために、これから努力し続けることが大切なのです。ゆっくりでもいい。235人の周布っ子が、自他を尊重し、みんなで協力しながら、目標やめあての達成に向けて挑戦し続けてくれることを期待しています。

挑戦 陸上大会に向けて

今年度の浜田市小学校陸上競技大会は5月22日（木）に予定されています。5・6年生は全員が選手です。自分の目標に向かい、体育の時間や放課後を使った陸上練習に一生懸命に取り組んでいます。その姿はなんとも清々しく、輝いています。



この大会には、浜田市内15校すべての小学校の5・6年生が出場します。もちろん、他校児童との交流を深めることも大切なねらいの一つではありますが、大会である以上、当然、競い合い、順位がつきます。ですから、子どもたちも出場する以上は、大会での好成績、上位入賞、あるいは自己記録の更新を狙うはずで、むしろ、それぐらいの気概がないといけません。しかし、どの学校の児童もこの大会に向けて同じ気持ちで練習し、努力するわけですから、必ずしも満足できる結果が出るとは限りません。私は、この陸上練習そして大会を、子どもたちにとって【挑戦】の場・機会だという風に考えています。自分の限界を超えるための挑戦、自己記録への挑戦、すなわち心と体の成長への挑戦です。やらされる練習ではなく、自分のための練習を本気でやり続けた時、今回の挑戦の大きな成果が表れるはずです。

大会当日の22日には、練習を始めた頃と比べて、ひと回りもふた回りも成長し、たくましくなった周布っ子の姿が見られることを願っています。頑張れ、周布っ子！！

今年度初めての茶っ友隊がありました

「笑顔あふれる学校を目指して」「たくさんの人とのかかわりの中で子どもたちの自己肯定感を高める」そんな願いを込めて昨年度から始まった茶っ友隊。今年度は、茶っ友隊の日を低・中・高学年別に設け、学年の実態に応じてより深く、より密に子どもたちが茶っ友隊の皆さんと関わるができるようにしました。その今年度初めての茶っ友隊が5月13日（火）にありました。この日は低学年が対象で、昼休みにはたくさんの1・2年生が茶っ友隊の皆さんと一緒に好きなことをしながら楽しい時間を過ごしました。会場となったOSには、子どもたちのとびきりの笑顔があふれ、笑い声や歓声が響いていました。



今年度から、市内すべての学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティスクールとして、これまで以上に学校・保護者・地域が連携を密にしながら学校運営を進めていきます。私は、この茶っ友隊の取組を、周布小学校のコミュニティスクールとしての活動の柱の一つにしたいと考えています。【郷土に根ざした健全な児童の育成】という学校教育目標、そして、【みんなの笑顔があふれる周布小学校～スマイル・フル～】の実現のためには、何といても人と人のつながりが不可欠です。子どもと大人が、難しいことは抜きにして、遊びを通してかかわる・つながるこの茶っ友隊を、周布小学校の目玉にしたいと思っています。

目指す理想としては、

- かかわりを通して、子どもも大人も元気になる
- かかわりを通して、子どもも大人もスマイル・フルになる
- 多くの人がつながることで、温かでスマイル・フルな地域になる

です。茶っ友隊にはいつでも、どなたでも参加できます。ぜひご協力をお願いします。ご連絡は校長（大達）まで、お気軽にどうぞ。

6月の主な行事

- 2日（月）川探検（4年）
- 5日（木）歯科検診（4～6年）
- 6日（金）算数科公開授業（2年）
- 9日（月）交通安全教室
- 10日（火）SC来校 耳鼻科検診（1・3・5年）
- 12日（木）・13日（金）修学旅行（6年）
- 17日（火）SC来校
- 19日（木）夕日パークで遊ぼう（1年）
- 20日（金）学習公開日
- 24日（火）SC来校
- 26日（木）・27日（金）宿泊研修（5年）

★あくまでも予定ですので、変更になることもあります。

